

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
45

2016 弥生・卯月

特集

金剛禅布教と教化育成の拠点、
道院



香川県 さかいでせんしゅう
坂出専修道院

金剛禅布教と教化育成の拠点、道院

道院は、全国における金剛禅布教と門信徒教化育成の実施機関であり、まさに地域での最前線活動を担う重要な拠点です。対して、現代社会における宗教の教え、そして寺社施設の存在は最近とみに注目されており、心の安らぎを求めて、法話講演会や神社仏閣巡り、そして座禅、写経などのワークショップに足を運ぶ方々が増加傾向にあります。そこからは、「信仰」の枠にとられない、親しみを持って楽しみながら宗教に接する、非常に日本人らしい様子が伺えます。このような時代背景の下、今号では全国の道院でどのような布教・教化育成活動が展開されているのか、二つの道院を取材してみました。

担当/永安正樹



坂出専修道院は、スポーツ少年団の所属長を務められていた大西専七道院長が、「やはり原点は金剛禅」と、1984年(昭和59)に専有道場を自宅隣接に建築し、道院を設立されました。

入門者が増えるにつれ道場の増設を繰り返し、現在は2階建ての道場を2棟建設するまでに至りました。

「お金はかかりましたよ。しかし門信徒には集中して修練してほしいですから」

その建物の大きさだけでも、地域から大変目立つ存在ですが、それだけで人が集まるわけでは決まらなかったそうで、「やはり地元とのつながりが大事でした。そうでないとい、この建物もただの武道場としか映りません」

古くから地元の自治会・子供の

要職を務めてこられたほか、道院設立当初から少年育成センターなども積極的に関わり、地道に社会的信用を積み上げた大西道院長。今では坂出市少年警察補導員の会長も務められており、副会長、監事も坂出専修道院の幹部が務めているほどです。

「住宅街ですから、気合などは近所迷惑の原因になります。時には駐車場で修練することもありましたので、最初は周りの人からびっくりされました」

一度、近隣から苦情が入ったそうですが、宗門の行たる易筋行の意義をきちんと説明されたことで、理解を得られたとのこと。逆に今では「大西さんは道院長だからしっかりしている」と地域からも一目置かれる存在になっています。

この評判から、「大西さんのとこ

埼玉県 さいたまはにゅう 埼玉羽生道院



ろに預ければ大丈夫」と少年少女が集まるようになりました。そして、大西道院長の指導で我が子の成長を実感された保護者が別の家族へ道院入門を勧め、新たな門信徒が増える……という、口コミによる布教スパイラルが出来上がっているようです。

また、厳しくも愛情あふれる指導は、少年部拳士の修練継続につながり、進級・進学・就職を経てでも眠しないまま道院の幹部として育ち、道場内での後進指導に携わられていることも大きな特長です。そのため、大勢いる少年部拳士への指導体制も万全で、「そうそう、その調子！」と道場の至る所で若々しい声が響いています。

休憩時間も、お兄ちゃんお姉ちゃん拳士に少年部拳士が群がりよじ登り……といった風景が見られ、保護者の道院に対する信頼感はより高まっている様子。

「これだけの道場ですし、何より生まれ育ってきた街ですから、失敗したからといって出ていくわけにもいきません。金剛禅はもちろん、家族の名前を汚さないよう、世間に恥ずかしくない活動でひたすら頑張るだけです」

ご本人曰く、勧誘活動は行ったことがないそうですが、大西道院長の地域における社会貢献活動と道院での日々の姿勢こそが、坂出専修道院の大きな広報源になっていることは間違いありません。

埼玉羽生道院(宮路文男道院長)は、2012(平成24)年に設立されたまだ新しい道院です。

新興住宅地の一角に建てられたモダンな外観の専有道場は、住宅街に溶け込み、一見金剛禅の修練道場とは分かりにくい佇まいです。

「とにかく道院を知ってもらうために、道場を飛び出して体験教室を積極的に行いました」(※教室・講座開設は本山への届けが必要)

その上で、「より楽しませたい方は道院へどうぞ」と入門を案内したそうです。

近県で事件があり、安全への関心が高まった時期と重なったのか、多くの方が体験に訪れ、入門につながり、更に入門者が友人・家族へ入門を勧め……と、入門者は増加傾向に

あるとのこと。人が人を呼ぶこのスパイラルは坂出専修道院と同じものですが、設立して間もない埼玉羽生道院はどのように信頼を勝ち取り、布教・教化育成につながられたのでしょうか。

取材の中で、埼玉羽生道院ではプリント配布物が比較的多いことに気がつきました。「見学者には手製のしおりを配っています。金剛禅の活動内容について、しっかりと印象づけるようにしました」。また、「保護者には鎮魂行に関するしおりも渡しています」。

10ページほどの小冊子には、釈尊・達磨大師のこと、また「心の教育」『脳の活性化』といった、鎮魂行から期待できる効果などが分かりやすく記されています。これを読む

と、道院が金剛禅の修練道場であることが理解でき、まさに今、世間が宗教に求められている内容が記載されています。

また月一回発行の道院通信にも、「正信について」など、金剛禅の教義を簡単にまとめた項が毎号掲載されています。

「本当はよくないのですが、子供たちに法話をできない日がたまにあります。そんなときは、これを『家でお母さんに読んでもらいなさい』と言っています」

こうすることで自然におうちの全員が、金剛禅の教えを理解いただける工夫になっているようです。

「教えを理解いただくというより、子供がどんなことを学んでいるか、保護者の方は知りたいんじゃないかと思うんです」

このほか、一日の時間割、信徒会費・香資に関する説明文、そして少年部には保護者との連絡通信票などが準備され、またプリントをなくさないよう、これらがチャック付きビニールケースに入れられ、一人ひと

りに手渡されていることから、宮路道院長の心配りを感じます。

「本当は保護者の方に道場での生の子供の姿を見ていただきたいんです。ただ駐車場が狭いので、どうしても送り迎えだけになる。だったらせめてもの……という思いですね」

この工夫や心配りが、保護者が安心して子供たちを任せられる信頼感を生み出しているように感じました。また決して広くない道場だからこそ、門信徒同士が互いに親密な空間を築けている様子でした。

「住宅街ですから、騒音や駐車場でご迷惑をおかけすることもあり、帰山の度にお土産を買って近所に配るんです。おわびとお礼に伺いながら、最後は道院の話になるので、結局布教しているようなものです(笑)」

新興の地での設立間もない道院だからこそオープンに、そして親密に情報共有・交換を図ることで、入門者やご近所さんの不安を取り除き、安心・理解・信頼につなげていく工夫を感じました。

二つの道院を取材して……

道場規模や設立年数などは異なる二つの道院ですが、どちらも少年部拳士の笑顔と、幹部たちの自分のためだけに終わらない修

練、そしてそれを少し離れたところで見守る道院長のまなざしが印象的でした。

そこに共通するのは強いアットホーム感です。その家族的連帯感を醸し出すのは、やはり道院長の「人柄」としか例えられません。

また、両道院長とも「外部との接点を非常に大事にされている、という点に気がつきました。そこには、地域とつながり、情報を常に開示することで理解を図る努力と工夫がかいま見られます。

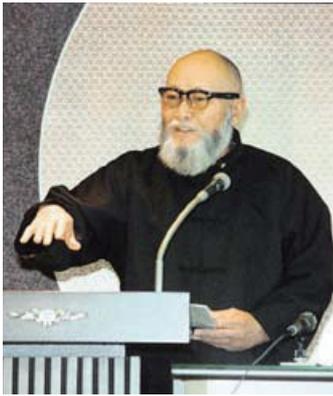
両道院長とも「特別なことはやって

いませんよ」と謙遜されましたが、その姿勢は間違いなく門信徒やそのご家族、そして地域に安心と元気が与えられていました。

その手応えに道院長も更にやる気を増し、結果、道院に活気が生まれる……、そんな相乗効果を二つの道院に感じることができました。

習い事や、一般の武道、スポーツの枠に収まらない、社会や人々のために安心と活力を与えることができる金剛禅(道院)。それは、道院長の真摯(しんしん)で前向きな明るさによって支えられていることを、改めて実感した取材でした。





開祖語録 ダイジェスト

1974年度
整法講習会

ふだん着の 金剛禅

総務部 部長 堀家 富世

感謝

織田信長が好んだ『敦盛』の一説、「人間50年、下天のうちを比べれば……」を中学生のころ聞き、自分には程遠い年齢だと思っていたのですが、時の流れは早いもので私もその年になりました。家族に祝ってもらいながら、改めてこれまで歩んできた道を振り返り、穴があつたら入りたいほど恥ずかしいことをした思いや、たくさんの反省や、うれしかったこと、楽しかったこと、苦しかったこと、つらかったこと、さまざまに感慨深いものがありました。振り返れば、50年前に命を懸けて生

んでくれた母のおかげで、私はこの世に生を受けることができました。そして、生まれてきたご縁で、50年間多くの方々と出会うことができました。人生の節目節目を無事に過ごすことができたのも、家族とその時々に出会えた方々のおかげです。その中でも特に、人生の半分以上を過ごすことになる金剛禅とのご縁は、私にとって大変深いものであり、たくさんのことを学ばせていただいております。

導くださっている先輩方、また、日々の業務においては、共に悩み、切磋琢磨する仲間がいるから、毎日元気に過ごすことができているのだと、心から感謝しています。「魂をダーマより受け、身体を父母よりうけたる事を感謝し、報恩の誠をつくさんことを期す」この世に生んでくれた母に感謝し、周りの方々、環境にも感謝し、これからの人生を、感謝の気持ち忘れずに、少しでも他人の役に立つ人間として、精進してまいります。

私はダーマを宇宙に遍満する「いのちのはたらき」と理解し、全て生きとし生けるものは、その大いなる力に生かされて生きていると信じています。その上で私は、自己の確立、己の価値の発見ということを一貫して主張、教育し続けてきた。また、本当の信仰とはそうでなければならぬとも教えてきた。

を拜むことではないのです。自分がダーマに発する「いのちのはたらき」を分け持つすばらしい人間だということを理解できたら、すでにそのことが信仰、信念の確立なのだ。人とは、自然治癒力といった、あるいは勇気とか英知といったさまざまな力・働きを持ったすばらしい存在である——という認識です。言葉を換えるなら、人間は誰もが「可能性の種子」として存在する、という見方です。

でも、間違ってもらっては困るの

が、人には誰にも今言ったような進歩向上の可能性があるにしても、具体的な努力やしっかりした蓄積がなければ、種子は育たないということです。自分は可能性の種子、磨けば光る玉だと己を励まし、それぞれに備わっているはずの可能性の種子を開花結実させる。

人間には、そうしたすばらしい選択の余地が、努力次第では常にあること、それを信じようではないかという事です。

信仰なんて言葉を聞いたとたんにも嫌いな人が、この中にもいるでしょう。でも、人間としての自己の正しいあり方、尊敬を自覚する唯一の道は信仰なのです。別な言い方をすれば、人間尊重を自覚させ、生み出す信念なのです。

ダーマを信じるというのは、仏像

可能性の種子を開花結実させる

「真純単一に」

「少林寺拳法教範」の「金剛禅の主張と願い」の項では、「金剛禅と云うのは(中略)、生きている人間が、拳禅一如の修行をつみ、不屈の精神力と金剛身を養成し、まず己をよりどころとするに足る自己を確立し、そして他の為に役立つ人間になろうという、身心一如・自我共楽の新しい道であり(中略)、現世に於て平和で豊かな、理想境を建設せんとする教えである」と教示されています。

そして、「昭和二十一年に帰国して以来、はじめから一貫して、右のような教えをかかげて運動を続けてきたのは、(中略)宗教も、思想も、道徳も、科学も、(中略)すべて生きている人間のためのものであり、すべて生きている人間によって運用され、開発されているものであると云うことを知ったからである」と、述べられています。

金剛禅運動は、「全ては人による」を基本とし、幸福運動として展開していると考えてよいと思うのですが、その根本は、開祖が1931(昭和六)年の満州事変から、45年の敗戦、46年の帰国までの16年間を、20歳から35歳という人生の最盛期に体験し、その中

で、自らの果たすべき「使命」に気づかれたからだと思っています。

人生における多感で重要な時期に、日々、死と隣り合わせで生きることや、人の性(本性)に直面することにより、実体験の中で金剛禅の主張と願いに至り、その教えの軸を、釈尊の縁起の法とし、行のあり方を、禅宗の始祖・達磨の不撓不屈とした新しい道なのです。全ては自らのことであり、正義を貫くには、決して屈しない強い心が必要であるということを教示されたシンプルな教えであると私は理解しています。

「真純単一」ということは、正しいものは強くなければならず、原因と結果の因果をわかまえて生きることであり、その上での自らの質の向上です。その中心が、ダーマ信仰。

ダーマとは、理です。関係を示しますと、人によって行われ、縁起の法を信じ、全ては自己に帰し、不撓不屈の精神で生き、それを日々実践し、その中で、生かされている自分(感謝)に気づき、これらを積み重ねる(漸々修学)。この繰り返しが、金剛禅であり、ダーマ信仰のあり方ではないかというのが、

現時点での私の理解です。

入門は、金剛禅を、その教えに沿って真純単一に修行することを誓わなければ許されません。よって、入門を許されると、我々は同じ道の同志であるといっています。

このことは重要です。真純単一にこの法を修行するということは、一生懸命習得しようとする気持ち(精進)の共鳴です。他の考え方を、金剛禅と照らし合わせて議論するのではなく、前述の開祖の体験からなる教えの原点を、金剛禅の主張と願いに照らし合わせ、易筋行と鎮魂行を主行として漸々修学することが、我々の行の基本ではないでしょうか。

かくなる我は、日々の煩惱は消えず、小さなことによくよしながら、ストレスの中で生きています。こんな中でも、同志とともに汗を流し、語らい、我に返る道院修練や帰山などは、よき導きとなっています。

煩惱具足の凡夫そのものです。
正しきものは強くあれ!(土光登美)
悔いなき人生のために。

生きていく間は負けていけないのですから。
真純単一に……。

道



今は……

三重千種道院 道院長 中山 文夫

少林寺拳法を始めたきっかけは不純でした。今から42年前のこと、若かりし19歳の3月初め、先に入門していた友人に誘われて四日市道院(故・北岡隆弘道院長・当時)へ見学に行きました。ブルース・リーの映画「燃えよドラゴン」全盛の時代です。道院長からは、「少林寺拳法には勝敗がない」と説明を受けたことを、今でも覚えています。見学の帰りに、ゲーム機が置いてある喫茶店に入り、言われるままに、面白半分ですれをやったところ、100円が1万円になりました。その

お金で、入門香資、信徒香資を納め、道衣代を支払うことができました。それがなければ入門していなかったかもしれません。ふざけているのかと、先輩諸氏には叱咤されるかもしれませんが、不純なきっかけとは裏腹に、入門後は修練が楽しくて楽しくて、少林寺拳法にのめり込みました。初段を許可されたころには、既に道院長になると決めていました。ただそのころは、金剛禪については全く知る由もなく、技術のみの修練でした。四段許可後、オーストラリアでの少林寺拳法の普及を志していたとき、1981(昭和56)年に日本少林寺武道専門学校(武専)本校

(現・禅林学園社会武道学科)が開校すると知り、少林寺拳法のメッカで学ぶことが一番と、26歳のとき、結婚と同時に、勤めていた会社を退職し入学しました。妻は本部職員、私は武専学生という新婚生活を、多度津のおんぼろ借家で過ごしました。

卒業間近になったとき、鈴木義孝先生(現・SHORINJI KEMPO UNITY 顧問)から、卒業したら山に残れとありがたいお言葉を頂きましたが、夢を捨て切れず、お断りしました。すると、奥さんだけでも置いていけ(笑)と言われ、さすがに驚きました。必要だったのは、私ではなく妻のほうだったので。今では、鈴木先生を囲んで仲間と酒を飲むときの、楽しい思い出となっています。

渡豪直前に母が病に倒れ、そのまま世界したため、父を残していくわけにもいかず、オーストラリア行きを断念し、地元での道院開設となりました。

道院開設後は無我夢中でした。家庭、仕事と少林寺拳法の両立は、非常に厳しいものがありました。家族や職場の理解、門信徒の協力のおかげで続けることができました。

私は、少林寺拳法以外の武道を詳しく知り

ません。それなのに私が少林寺拳法だけを続けているのは、少林寺拳法でなければならぬ明確な理由があるからです。それは、開祖の思いと金剛禪の教えに共感したこと、そして、大きな目的に向かって帆を上げた金剛丸に、自ら乗り込んだという責任を全うするためです。開祖が我々に言い続けてきたことは、確実に未来を見据えており、創始より69年の時を経た現代においても、問題の核心を突いています。今こそ開祖の言われたことを実践し、理想境を実現するときだと考えるようになりました。少林寺拳法に入門して42年、指導者になって32年、人生の折り返し点を過ぎ、お世話になった方々への恩返しとともに、金剛禪布教者としてやらねばならぬことをどう実践していくのか、限られた時間の中で見つけていきたいと思っています。

少林寺拳法を初めて見学に行った帰りに、あの喫茶店に行かなかったら、そして、もしゲームをしていなければ、今の私は存在しません。私が少林寺拳法を始めたきっかけは不純でした。しかし、きっかけはどうか、今は本気で、開祖の思いと、金剛禪の教えに向かい合って生きています。そしてこれからも。

ダイジェスト



志をつなぐ

田原 正晴 76期生
大導師大範士九段

人の喜びを自らの喜びとする生き方

自分の持っているものを外に出す
ことで、人は生きられます。
普通は自分の中に、何でもかんでも
も取り入れて自分のものにしてしま
いますが、惜しげもなく与えること
が大事です。
何も持っていないと思ってい
ても、施せるものはあります。
技を教えることもそうです
が、困っている人には手を差し伸べ

る、遠く離れた親には顔を見せてあ
げるなど、探せば何かしらあるはず
です。
人に喜んでもらって、それを自分
の喜びとすることです。
言葉は違うかもしれませんが、開
祖からは、そう教わったように思い
ます。
※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オ
フィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼昭和30年代の写真



ダイジェスト



道院長 vol.30 元気の素

まつがさき
京都松ヶ崎道院
道院長 ながえ たけまさ
道院長 永江 健将(39歳)

道院長は楽しい！

——道院長になってよかったと思う
ことをお聞かせください。
まだ設立して3年ですが、縁がど
んどん広がっています。門下生たち
の日頃の姿勢が変わった、学校でこ
んなことをしたという話が、今まで
の本人からは想像もできないこと
だったり、電話したときの対応が以
前よりしつかりしたり、些細なこと
ですが、拳士の成長を感じることが

うれしいです。
道院長って楽しいですよ。門下生
が楽しめるようにと思って活動して
いますが、いちばん楽しんでいるの
は私です。門下生が金剛禅に入門し
てよかった！ 生き方が変わったと
感じてもらえれば、道院長冥利に
尽きます。
※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサ
イトの全文もぜひご覧ください。



姫路白鷺道院

姫路白鷺道院設立50周年記念祝賀会

2015(平成27)年11月22日、姫路キャッスルホテルにて、姫路白鷺道院設立50周年記念祝賀会が開催されました。

国内外から240名の来賓・同志・家族を招いての盛大な会となり、藤本義政先代道院長のお顔の広さとそのご人徳を、改めて伺い知ることができました。本山からは、大澤隆代表、浦田武尚前代表、鈴木義孝元代表にご臨席



賜りました。ご宿泊いただいたご来賓には、翌日、世界文化遺産であり、国宝でもある姫路城をご案内し、大変好評を博しました。

姫路白鷺道院は、2014年に姫路書写道院と合併し、今日に至ります。我が師の足跡と自らの足跡を重ね合わせ、感慨深い気持ちであると同時に、その歴史を一層、継続・発展させていかなければと闘志に燃えるところです。

今後、多くの皆様とのご縁を育み、地域社会で必要とされる金剛禅運動に邁進してまいります。(伊澤啓介)

大阪阿倍野道院 故・美田雅章先代道院長顕彰法要

去る11月23日、本山大雁塔顕彰施設において、大阪阿倍野道院設立55周年の記念として、故・美田雅章先生の顕彰法要ならびに遺品収蔵式が挙行されました。

法要では、鈴木義孝元代表、西尾武責任役員にご列席賜り、美田暢紀道院長・ご遺族、大阪阿倍野道院出身の道

院長、法縁関係者の見守る中、大澤隆代表が導師を務め、遺影と遺品が収蔵されました。その後、故人のありし日を偲び、順次献香を行いました。献香の際、鈴木先生が遺影に多くの思い出を語りかけられたのが印象的でした。

最後に、美田暢紀道院長より、遺品として納めたカメラのお話や先代との思い出が語られ、参列者の方々にお礼を述べられました。法要に際し、本山職員の皆様のスムーズな進行と、急な雨に傘を用



意していただくなど、細やかな配慮が隅々まで感じられました。

法要終了後、多度津町の日本料理店に席を移し、献杯後、故人の思い出話にひたごすことができました。

(松田米晶)

千葉東部小教区 秋期千葉東部小教区研修会

11月29日、千葉県横芝光町・私立横芝敬愛高校体育館を会場に、千葉東部小教区研修会が行われました。

銚子、九十九里地域の道院長より約80名の参加者が集まりました。

午前中の講義は、鈴木敏道銚子道院道院長を講師に、「礼拝詞の主旨」をテーマとして講義とグループ討議を行いました。講義では、鈴木先生から礼拝詞の意義や解釈について解説があり、「自己の内面に響くよう、全員で唱和できるような心がけてほしい」との指導が参加者全員にありました。



昼食を挟んでの技術研修会(易筋行)では、尾崎安展千葉茂原道院道院長指導の基本修練から始まり、資格別に分かれての実技、伊東茂治千葉海匝道院道院長指導の運用法と、予定時間いっぱい、中学生から60歳代までの参加者全員が、道院の枠を越えて汗を流しました。

地域的に広い小教区ということもあり、所属する道院が一同に集まる数少ない行事であり、参加した拳士全員の熱意があふれる一日となりました。(矢口吉人)

僧階昇任者

中法師 ■2016年1月10日付
 矢島 隆禪(川越道院)
 西村 軍平(春木道院)
 大澤 隆(金剛禪総本山少林寺)

佐藤 健二(福岡西道院)
権大導師 ■2015年12月1日付
 伊藤 作次(名古屋瀬古道院)
 松田 孝弘(三重桑名道院)

中導師 ■2015年11月1日付
 川合 修一(米沢道院)
 ■2015年12月1日付
 大家 国人(石川大聖寺道院)

西尾 成秋(福井社道院)
 橋 満(神戸垂水道院)
 吉田 将則(岡山吉備道院)
 ■2016年1月1日付
 上西 貴博(太田西道院)

武階昇格者

九段 ■2016年1月10日付
 松木 長實(鷺沼道院)

藤田 昌三(熱田道院)
 藤本 義政(兵庫県立大学姫路)

今井 明雄(明石道院)
 小池 孝忠(岡山中央道院)

喜田 良延(高松南道院)
 西村 建夫(高知南国道院)

法階昇格者

大範士 ■2016年1月10日付
 坂井 紀夫(高崎道院)
 矢島 隆禪(川越道院)
 小野寺 米蔵(勝田台道院)
 石井 宏明(シニア流山初石(コース制))

名田 誠(姫路南道院)
 大池 勝一(宝塚道院)
 濱田 宏行(宇和島道院)
 佐藤 健二(福岡西道院)
正範士 ■2015年12月20日付
 齊藤 敏也(札幌平和道院)

准範士
 ■2015年12月13日付
 山本 輪一(市原道院)
 永原 健志(東京試衛館道院)
 齋屋 勉(久留米道院)

■2015年12月20日付
 山内 智晴(上富良野道院)
 田村 文雄(旭川南道院)
 中川 景季(一関道院)
 中村 敏之(東京築地道院)
 大脇 早知子(西東京保谷道院)

お布施

少年部指導講習会

▷東京千代田道院 張 碧華……………100,000円

来山記念

▷東京大塚道院 矢野 順一……………50,000円
 ▷加賀梯道院 かけはし会……………20,000円
 ▷東京表参道道院……………10,000円
 ▷富士の会(加賀梯道院関係者)……………10,000円
 ▷代々木上原道院……………5,000円

布施

▷代々木上原道院……………50,000円
 ▷山梨県教区……………10,000円
 ▷豊田末野原道院 服部 俊美……………10,000円
 ▷合田温子(故・合田清一今治道院道院長夫人)……………30,000円

達磨祭(東京別院)

▷東京大塚道院 矢野 順一……………10,000円
 ▷東京都教区……………10,000円

設立50周年記念

▷姫路白鷺道院……………100,000円

設立30周年記念

▷佐世保南道院 道院長 松永 克明……………10,000円

設立20周年記念

▷熊本海西道院 道院長 村田 郁夫……………20,000円

勤続25年表彰記念

▷三重津東道院 道院長 濱崎 哲也……………50,000円

金剛禪総本山少林寺改修基金

▷愛知上里道院 道院長 民谷 敏夫……………30,000円

公認講習会

▷神奈川県教区……………80,000円
 ▷埼玉県教区……………30,000円
 ▷広島県教区……………30,000円
 ▷愛媛県教区……………30,000円
 ▷福井県教区……………30,000円
 ▷秋田県教区……………30,000円
 ▷茨城県教区……………30,000円
 ▷北海道教区……………30,000円
 ▷東京都教区……………50,000円
 ▷愛知県教区……………30,000円
 ▷徳島県教区……………30,000円
 ▷福島県教区……………30,000円
 ▷三重県教区……………30,000円

新春法会

▷岐阜県教区……………30,000円
 ▷愛知吉良道院……………30,000円
 ▷江南西道院 道院長 武田 隆……………30,000円
 ▷西宮香栴園道院 道院長 岡田 祐治……………10,000円

▷川西中部道院 道院長 丸野 俊一……………10,000円
 ▷三重津東道院……………10,000円
 ▷東松山道院 道院長 倉田 健治……………10,000円
 ▷千葉野田道院 道院長 森 久雄……………10,000円

徳島県教区、高知県教区、梅津道院、大阪伊吹道院、京都向日町道院、高松南道院、奈良宝来道院、本部道院、三重千種道院、浦田武尚、山崎博通、大西要、岩田章三、大野木憲三、柏井伸一、木村弘史、東京都教区、中野人忍、畠山誠、加藤義秋、鎌田智、喜田良延、今井明雄、今城隆廣、佐々木繁士、山崎隆尉、篠原正、小池孝忠、小野寺米蔵、庄野雅巳、森健太郎、西村建夫、田原正晴、田中正則、牧野清、本田演昭、高野實、本部道院OB会、ANAセールス株式会社、オークラホテル株式会社、株式会社日本旅行、株式会社JTB中国四国高松支店、株式会社O.P.S.、株式会社STNet、株式会社アイコピー印刷、株式

社オザキ、株式会社カナック・ビジネス・ソリューション、株式会社カメイ務商店、株式会社サンエイ、株式会社セントレディス、株式会社ビルド、株式会社一鶴、株式会社花岡自動車、株式会社牛田塗装、株式会社広告通信社、株式会社香川クリエイティブプロダクツ、株式会社香川銀行、株式会社高松ホットスタンプ、株式会社高松三越、株式会社合田工務店、株式会社四電工、株式会社前川商店、株式会社百十四銀行、株式会社百十四銀行多度津支店、関西実業株式会社、亀山石油株式会社、金井工業株式会社、香川印刷株式会社、今治造船株式会社、三井住友海上火災保険株式会社高松支店、山陽放送株式会社、四国旅客鉄

道株式会社、四国旅客鉄道株式会社多度津駅、新日本印刷株式会社、大電機工業株式会社、大倉工業株式会社、大和証券株式会社高松支店、日本総合保険企画株式会社、日本郵便株式会社、富士建設株式会社、名鉄観光サービス株式会社、野村證券株式会社高松支店、トリックスターズ・アリア有限会社、香川記章有限会社、東洋防蝕工業有限会社、有限会社えびす、有限会社旭商会、有限会社華や商事、有限会社光風社広告、有限会社西山印刷所、有限会社多度津タクシー、有限会社長尾酒店、有限会社白光舎、大西旅館、ペンションでぐち荘、ホテルトヨタ、民宿ちくさ、民宿トキワ、民宿浦島屋、民宿

細川、アーネスト法律事務所、お食事処まんぶく食堂、買田果物店、木谷歯科、四国健康村、花樹海、ホテルサンルート瀬戸大橋、山崎生花店、小畑長生治療院、特別養護老人ホーム桃陵苑、富士スポーツ工業、木谷仏壇、後藤昭一、小川肇、石井宏明、藤田昌三、藤本義政、内海昌浩、内海武彦、西山俊一郎、公受弘充、多田羅貢、中数賀昭子、宮竹八千代、村井智子、岸本明輝、吉田弘子、宮野義久、宮野倫子、近藤典子、坂口寿男、三好康治、若山詣子、小田浩司、小畑哲雄、西山修、倉本英雄、村野巨樹、多羅尾尚、大野功統、中村秀明、田窪昭宏、田中勇、都筑美好、徳善久人、萩原妙子、本多英信

訃報

合田 清一 今治道院(元道院長)、49期生、中法師大範士九段、2015年11月30日逝去、85歳
御田 武尚 大阪松原道院道院長、136期生、大導師正範士八段、2015年12月10日逝去、74歳
西條 正善 富田林道院(元道院長)、147期生、中導師准範士六段、2016年1月4日逝去、73歳
田森 清 帯広南道院道院長、283期生、大導師正範士七段、2016年1月19日逝去、64歳

編集後記▶強くなりたいと思って道院に行くと、道院長から「半分は他人の幸せを考

える」など思ってもみなかった話を聞いた。

人と仲よくすることの大切さを学んだ。

これは多くの拳士の感想と思います。

開祖曰く「ここに集まったことを一つの契機

に、今まで思ったこともなかった人間としての

生き方を考えてみる」。また少林寺拳法や

いろいろな世界で知りえた人たちと「心をさら

した裸のつきあい、利害打算でない温かい

つながりをつくっていく——そういう意味ある、

意義あることに取り組もうじゃないか」

この言葉の実践者が道院長さんであり、特

集はその様子を紹介するものです。道院長

は「楽しくて深い」。改めてそう思います。(ふ)

表紙▶河合修 愛知県出身。日本を代表

する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを

経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテ

ーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。

中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺公式サイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>

代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林

寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面

に掲載しきれなかった記事・写真も掲載され

ています。

金剛禅総本山少林寺

あ・うん | vol. 45
金剛禅総本山少林寺広報誌 2016 弥生・卯月

2016年3月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：藤井省吾

印刷・製本：(株)ブル・ドック

広報誌「あ・うん」追加発送について ◆◆◆◆◆

現在、広報誌「あ・うん」を、1道院につき門信

徒10人以上の場合12部ずつ、9人以下の場合10

部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供

させていただいております。更に追加をご希望

の方は、本山宗務部にお申し出ください(追加1

部につき50円・送料別途要)。

TEL.0877-33-1010

e-mail: fukyoka@shorinjikempo.or.jp

いちごいちえ 一期一笑



イラスト／大原由軌子

浜松渡瀬道院 道院長 浅井昌典

魔法の言葉

「あそぼ」。今日もこの魔法の言葉が道院に響き、〆オニこっこやだるまさんがころんだ」などで、少年部の拳士たちが元気に大きな笑い声で走り回ります。修練開始までの約20分間、学年の違う子とも一緒に遊ぶ貴重な時間となっており、またそれ以外の効果もあるようです。まず、少年部の団結力が深まります。上級生を中心にみんなで遊ぶ。自然とコミュニケーションがとれ、連帯感とともに秩序が育まれます。次に、初めて体験入門や見学に来られた子とも、あつという間に仲よくなり、溶け込んでいきます。保護者に連れられてきた子供は、初対面の子供たちと、慣れない場所(達磨さん)と仁王さんがドンと正面に構えている道院は、威圧感があるようです)に大変緊張

張しています。ところが、「あそぼ」のひとつと言と笑顔で、たちまち緊張の表情は消え、修練開始のころには、すっかり打ち解けています。「集合」。19時ジャスト、もう一つの魔法の言葉が道場に響き渡ります。このひとりで今までの喧騒が嘘のようになくなり、全員が整然と整列し、鎮魂行が行われます(初めて見た保護者は一様に驚かれます)。鎮魂行の主座と準備運動のリーダーは、少年部に設けている主将・副将の役目であり、道院長は少年部の時間に一度も「集合」を掛ける必要がありません。現在の主将・副将は「第三代」を数えます。「あそぼ」「集合」の魔法の言葉は、「初代」から絶えることなく受け継がれています。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただきます場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

Ryuo Ken, Kiri nuki



宗門の行としての少林寺拳法

りゅうおうけん きりぬき
龍王拳 切抜

かぎてしゅほう
鉤手守法で相手の引き攻撃を抑え、鉤手した手を手刀に見立て、相手の親指を引き切るように抜く。鉤手の際、我の手首を相手の手掌に重く乗せることで相手の握力が弱まり、掌内に僅かながらの空間ができる。その隙を逃さず、手首を回転させながら切抜をするとよい。

撮影／近森千展 文／永安正樹 演武者／守者：倉本亘康 准範士六段 攻者：富田雅志 大拳士五段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法